

ふるさと美郷を懐かしむ 中部関西地区美郷町ふるさと会

2月23日、名古屋市内の会場で「中部関西地区美郷町ふるさと会総会・懇親会」が開催され、会員26名が参加しました。町からは、松田町長、高橋議長らが来賓として出席し、会員の方々と情報交換を行いながら交流を深めました。懇親会では、ふるさと美郷を懐かしみながら思い出話に花を咲かせ、会の終盤には皆で「美郷町民歌」を合唱し、来年の再会を誓い合いました。



お父さんと一緒にクッキング おやこ 父子チャレンジ教室

2月23日、美郷町北ふれあい館で「父子チャレンジ教室」が開催され、8組の親子が参加しました。この教室は、普段仕事でお子さんと一緒に過ごす機会が少ないお父さんに、お子さんとの楽しい時間を過ごしてもらおうと毎年行われています。教室では、みさぼーと職員が講師となり、参加者全員でそば打ち体験に挑戦。慣れない作業に最初は戸惑っていた参加者たちでしたが、お父さんとお子さんが協力しながら楽しく調理を進めました。お子さんの手際の良さを感じるお父さんの姿が見られるなど、教室を通じて子どもの成長を実感する機会にもなったようです。



地域の歴史に触れる 後三年合戦金沢柵公開講座

3月8日、美郷町公民館で後三年合戦金沢柵公開講座（主催：横手市教育委員会、共催：美郷町教育委員会）が開催されました。後三年合戦は、清原氏一族による内紛がもとになった戦いで、横手市金沢地区や町内には合戦に関連すると思われる遺跡が存在しています。講座では、両市町の教育委員会による遺跡調査報告や学識者を交えたパネルディスカッションが行われ、町内外から訪れた約200名の受講生はメモを取るなどして熱心に耳を傾けていました。



美郷中学校

たくさんの思い出を胸に 町内小中学校と幼稚園・保育園で卒業・卒園式

3月9日から18日にかけて、町内小中学校と幼稚園・保育園で卒業・卒園式が行われました。子どもたちは、思い出のたくさん詰まった学び舎に感謝の気持ちを伝え、春からの新生活に向けて第一歩を踏み出しました。卒業・卒園者数は次のとおりです。

- 千畑幼稚園・保育園(なかよし園) 44名
- 六郷幼稚園・保育園(わくわく園) 49名
- 仙南幼稚園・保育園(すこやか園) 46名
- 千畑小学校 70名
- 六郷小学校 60名
- 仙南小学校 37名
- 美郷中学校 167名



千畑小学校



六郷幼稚園・保育園(わくわく園)



六郷小学校



仙南小学校



地域資源の活用と作物の安定生産を目指して 美郷町農業研修会・農業施策説明会

3月14日、美郷町公民館で美郷町農業研修会・農業施策説明会が開催され、町内の農家など約230名が参加しました。

研修会では、秋田県立大学生物資源科学部生物資源科学科の金田吉弘教授が「地域資源を活用した土づくりによる作物の安定生産」と題して講演。町内の圃場で行った栽培試験結果で得た有機質肥料の有効性について紹介し、「地域資源を循環させる体制を構築するなど、土作りを土台とした技術で秋田の農業を支えてほしい」と呼び掛けました。続く施策説明会では、国・県・町の職員が平成26年度の農業施策について説明を行いました。



右手の力

美郷町長 松田知己



美郷雪華ルームフレグランス商品発表会であいさつを述べる松田町長

美郷町として新たな期待を込めた10回目の4月を迎えました。目の前の残雪には溜息が出ますが、節目の年度、意欲をもってスタートしたいと思います。きっとみなさんの回りでは、スタートにふさわしい意欲や期待を共有するために、歓迎会など多くの飲み会が開催されるものと思いますが、意思疎通の場として、そうした機会は大切にしてもらいたいと思うところです。さてその飲み会、「始めはビ

風

ールから」という人が多いかと思えます。いつからそのスタイルが定着したか知りませんが、たぶんビールの乾杯が一般化したのはここ半世紀程でしょうか。歴史的には日本酒の方が日本人には親和性が高いはず。その日本酒に関し、町では3月、日本酒で乾杯する条例を施行しました。「米の消費拡大か」と思うかもしれませんが、それだけではありません。実はもっと欲張りな「そのココロ」を少し紹介いたします。

この条例でめざしたいのは、まずは美郷の代表的特産品の日本酒とそれを取り巻く豊かな環境をアピールすること。穀倉地帯で水が良く、蔵元3つなんてそんなにありません。なお、ラベンダーから発見した「美郷雪

華酵母」も醸造に適するとのこととで、展開いかんでは、条例と相まってさらにアピール性が高まる期待もあります。また、転作廃止が予定される中、町内蔵元にできる限り町内産酒米を使ってもらい、将来の米栽培の多様化と消費量確保に備えたいというものです。さらにこうした取り組みを通じ、美郷の特色や独自性を深く認識してもらい、観光客の来町などにも繋げたいというものです。

こんな想いで制定した乾杯条例、どうかご理解をいただき、4月上中旬の歓迎会や下旬頃の花見などでは、できる限り町内の日本酒で乾杯していただくようお願いいたします。みなさんの右手に持つお猪口の一杯が、美郷の特色づくりや産業振興、そして観光振興にも繋がっていくかも知れません。ただし、自分の実力は決して忘れないでください。町が現在取り組んでいる生薬栽培では、残念ながら二日酔いに効く生薬はありませんので…。